

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年2月15日

事業所名 倉敷学園

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	40	1	・法的な基準は満たしている。しかし、園庭は公立園のような広い園庭があると、子どもたちもよりのびのびと外遊びができると感じている。 ・子供の数が多く危険な時はホールや集団療育室等に分散に出ている	・安全な広いスペースの確保は既存の状態では難しいため、工夫しながら環境を整えていきたいと思えます
	2 職員の配置数は適切である	37	4	今年度は特に職員が多い。職員数を増やしても良いと思う。 ・偏りもある。経験年数等の配慮が欲しい。例年に比べ正規職員の数が多。 ・急遽休みの職員が出て、フォローし合いながら対応できている。 ・偏りはあると感じる。職員が足りない時にはヘルプをお願いするようにしている。	・配置的には十分満たしていますチームアプローチでお互いフォローできるように認識を合わせていきます
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	40	1	・お子さんに合わせて、コンパクトな学習・作業スペースを用意し集中できるよう配慮したり、肢体に不自由があっても自分なりに身体を動かせるよう広くマットを敷いたりしている。 ・災害時、水害で2階へ避難する際など、バリアフリー化されていない為、避難困難と考えられる。 ・絵カードを使用してわかりやすくなっている	・既存の建物上災害時の避難においては、配慮が必要です。訓練を重ね安全面の配慮を検討していきます
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	36	5	・コロナ前から、環境整備の方が丁寧に消毒をしている。ただ、建物完成後10数年が経ち、老朽化している部分がある。 ・経費と調整しながらお子さんが安全に過ごせるよう修繕を行っている。 ・毎日掃除をしている。床や壁等経年劣化しているところがある。 ・消毒 特性に合った玩具 安全性等心がけている。 ・保護者視点になると、修繕が必要な箇所や買い替えが理想な部分は目につく。子供たちの遊びの段階に合わせて構造化している。 ・活動中や活動後に消毒し、清潔を保つよう努力している。しかし、玩具や用具を口に入れる子がいるが、その都度消毒は難しく、十分とはいえない。 ・落ち着ける部屋も、動き回れる部屋もある。廊下に物が多く危険。最近では少ないがたまにゴキブリが出る。木から芋虫が落ちてくる。子どもの好きな玩具を入れ替えるようにしている。	・建物は10年を超え老朽化しているが、整理整頓、清掃、消毒などは職員の手で清潔に保つことができると思えます。必要な修繕をしつつ安全に快適に過ごせる環境を作っていきます ・山、川、田んぼと自然豊かな場所であるため、様々な虫がいることも事実です。毎月外部業者（ダスキン）に委託し、害虫駆除や安全点検をしています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	39	2	・終礼、クラス会議、職員会議、嘱託職員向けの終礼、個別面談等の場で、多職種の意見を出し合う場がある。 ・クラス会議や毎日の打ち合わせ、反省などでも正職、パート職員ともに意見を出し合っている。 ・事業計画の目標には職員、クラス会議内で確認しながら進めている	・日々のコミュニケーションを大切にしながら振り返りの場、事業計画の進捗など確認しています
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	41	0	・昨年度の、第三者評価の結果をもとに、今年度の事業計画を策定。コミュニケーション（挨拶）に関しては、改善が見られる。	・保護者アンケートの結果から次年度の業務改善を事業計画に入れていきます
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	41	0	・倉敷市のホームページ、法人のホームページにて公開している。	・引き続きHPの公開を行っていきます
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	41	0	・昨年度の、第三者評価の結果をもとに、今年度の事業計画を策定。コミュニケーション（挨拶）に関しては、改善が見られる。 ・職員会議等で周知している	・令和3年度の受審結果を今年度の計画に反映し、未着や不十分な項目は引き続き改善していきます
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	39	2	・法人研修、毎月の職員会議内研修がある。また外部研修への参加承認等、研修への積極的な参加が可能。毎月の職員会議で研修を行っている。 ・全員に平等かと言えばそうではない。職員に受けてもらいたい研修と職員が受けた研修には多少のズレはあるように感じる。毎月、事業所内研修を行っている。 ・研修はあるが、以前より減っている	・オンライン研修を含め外部への研修に参加できるよう意向を確認しながらスキルアップを図っています
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	41	0	・入園前に所属園（療育）への見学、倉敷学園内預かりにてアセスメントを行い、入園前の状況を把握している。児発管や多職種と共に行うことができている	・引き続き多職種連携チームアプローチで児童発達支援計画の作成を行っていきます
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	41	0	・特別支援はより細かいアセスメントを行うため別途アセスメントシートを用意している。クラス会議で協議している	・引き続き生活全般を標準化したアセスメントツールで見立てを行っていきます
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	40	1	・家族支援の内容については、家族の状況に応じてより細かい目標を保護者に分かる形で示す必要があると感じている。できている	・家族支援についても具体的に中期・長期目標を設定し計画策定を行っていきます

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半期、長期の個別支援計画以外にも、クラス会議の場で、お子さんの目標や支援を検討している。ただ、ご家族に十分にその内容が伝わっていないと感じることがある。十分に伝わるよう懇談を増やす等する必要を感じる。</li> <li>・職員間で課題を共有。活動や自由遊びの中で、個々の課題を意識した関わりを行っている。</li> <li>・毎月のクラス会議で、支援方法を確認し、見直している。パートの職員にも情報を共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画に沿って、内容を把握し支援を行っています。園の支援計画、個別支援計画が両輪のごとく実施できるようにしていきます</li> </ul>
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス職員と話し合いながらできている。クラス間で話し合ったり、上司に相談したりして取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きチームプレーでお子さんの発達支援を実施していきます</li> </ul>
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節、実年齢、発達段階に合わせて活動を計画している。</li> <li>・季節の行事や屋外活動を積極的に取り組んでいる。</li> <li>・季節の行事等を取り入れている。</li> <li>・同じ活動が2日続けてないかなど、月案制作時に確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間活動計画に基づき季節行事など子ども達が様々な体験ができるよう引き続き実施しています</li> </ul>
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特性を尊重するよう心がけている。個人に応じた課題の設定が出来ている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童発達支援計画は、個別活動と集団活動を組み合わせながら作成できていると評価しています</li> </ul>
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	39	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員のスケジュールボードをもとに、活動の内容やお子さん・職員配置を見える化し、確認を行っている。</li> <li>・打ち合わせ時に職員の意見を聞き、変更することもある。</li> <li>・出来ている日が以前に比べて増えた。</li> <li>・出来ていないクラスもあるため、毎朝時間を決めておくのも対策。伝える時間がない職員には、個別で伝えたり、クラスノートにて伝えたりしている。どのような流れで、設定活動時は誰につくのかなど確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼、終礼、支援前後のミーティングは短時間でも必ずもつようになっています</li> </ul>
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	36	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当番職員(バス添乗、清掃、タイムケア等)により全員の参加が難しいことがある。正職員のみで行うこともあるが、話した内容を後日だの職員へ報告している。</li> <li>・気づきなど共有し翌日以降の療育に活かしている。毎日終礼をおこなっている。</li> <li>・出来ていないクラスもあるようなので、時間を決めておくのも対策。</li> <li>・正規職員のみでおこなっている時もあるため、クラスノートや次の日に伝えたり話し合ったりしている。</li> <li>・できている日とできていない日があるが、正規職員に限らず、嘱託職員などからの積極的な助言や反省はとても役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時差出勤の職員がいる中、様々なツールで情報共有を図り、改善を図っている段階です、見える化するとともに情報を自らつかむ姿勢をもつようにします</li> </ul>
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	36	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスノートを活用している。</li> <li>・もう少し記録を細かく取ることも必要であると感じる。</li> <li>・ささいなことでも記録をとるように心がけている。</li> <li>・あまり記録をつけられていないと感じる。1Dayシート(個別支援計画に関する記録)は記録できているが、その他の記録があまりできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、日々、行事の記録、個別支援計画書に関する経過、懇談記録、事故・ヒヤリ報告書は現状行っています。</li> </ul>
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	40	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のクラス会議にて、計画の進捗確認を行っている。</li> <li>・クラス職員と話し合いを行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なモニタリングを実施しておりその結果から再アセスメントを実施しています</li> </ul>
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	39	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児発管が出席している。</li> <li>・モニタリングには対応しているが、担当者会議はないこともあるのでは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就園や就学、入園時には必要に応じて担当者会議を開催している。参加者は主に児童発達支援管理責任者が参加している。</li> </ul>
関係機関	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	40	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントトレーニングを行なっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて保健師、子相などの機関と連携を図っています</li> </ul>
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	40	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の指示書をもとに、医療的なケアを看護師が行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師を中心に医療的ケアが必要なお子さんの支援に関する研修や、関係機関との連携の強化に努めています</li> </ul>
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	39	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力はしていると思うが、保護者を介した間接的な関係も多い。母親を通してが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療が必要なお子さんに対しては医師の指示書、保護者からの聞き取り、必要に応じて医師とのやり取りで連携を続けていきます。</li> </ul>
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就園移行については、園見学への同席をおこなうこともある。</li> <li>・就学移行については、引継ぎ書の作成、対面での引き継ぎを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移行先への訪問を行い保護者の不安軽減に努めています</li> </ul>
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	39	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前に児の園での姿を見ていただく引き継ぎの機会を設けている。就学資料を作成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移行先よりお子さんの様子を見ていただき機械をもち、情報共有と相互理解を図るようにしています</li> </ul>
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍になり、共同での研修は減少している。部会で共有している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつ対面での情報共有学びの場が増えていきます。オンラインでの研修参加も実施しています</li> </ul>



保護者との連携	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くりのおうち保育園、きらり中庄との交流はあるものの、法人外では難しい。</li> <li>・地域園へ交流を打診するものの、コロナが落ち着いたらと地域より回答をいただく状況である。</li> <li>・くりのおうち保育園、きらり中庄との交流はあるものの、法人外では難しい。</li> <li>・法人内に留まり、外部交流が多いとは言えない。</li> <li>・くりのおうち保育園との交流はあるが、コロナ禍で、難しい事もあるように感じている。</li> <li>・コロナ禍のため減ってきているが、できる限りで行っている。</li> <li>・くりのおうち保育園と関わる機会がある。敷地内の保育園の子が行事に参加する程度で、交流としては不十分。朝の会や行事は交流がある。</li> <li>・少ないため、機会を増やしていく必要あり。</li> <li>・回数は少ないが、コロナの感染状況を考えると仕方がないと思う。</li> <li>・事業所内の子どもと接する機会は多いが、それ以外の子どもと接する機会は少ないと感じるので、研修等で交流できる機会があればと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で敷地内の事業所・園との交流にとどまっている現状です。次年度は地域の園との交流を計画しています。子供たちの経験の幅を広げる機会をもっていきます</li> </ul>
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	27	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の職員はしている。分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援センターとして子ども部会やセンター部会には積極的に参加しています。会議内容を周知していきます</li> </ul>
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	40	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の申し送り以外にも、ケアコラボや連絡帳にて子どもの状況について共有することを心がけている。</li> <li>・送迎時、様子を伝え合うよう意識している。</li> <li>・登園時降園時と話す時間はあるが、共通理解にまでいっていないこともある。口頭のみならずケアコラボでも共有している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の送迎時や懇談、家庭訪問などで課題や今後について共通認識を図っています。</li> </ul>
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの感染状況から、いくつか中止になっている。コロナ対策として、中止にせずzoomを用いた勉強会に変更することもあったが、参加希望者が激減している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズと状況に応じた対応で今後も家庭支援プログラムを工夫して開催します</li> </ul>
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園説明会にて、必須でお伝えするが、皆様にご理解いただいているか、確認が必要と感じる。</li> <li>・その都度繰り返し説明確認することも必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントや書面を配布して丁寧な説明を行います</li> </ul>
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談にて、説明し保護者の了承を得て支援を開始している。懇談にて保護者の話を伺い、支援計画書を見直すこともある。</li> <li>・例題を出しながら伝えていく。支援計画を丁寧に説明し納得していただいた後に署名していただいている。</li> <li>・保護者との懇談で同意を得ている。年度始めに勉強会で伝えられている。療育で行う支援は保護者からの同意を得てから行うようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談時に原案とともに説明をして保護者からの同意を得ています</li> </ul>
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の経験年数や、利用児の登園頻度等により、家族と職員の情報共有が不十分であると感じることはある。</li> <li>・ケアコラボや連絡帳のみならず、電話の方がいい方に対しては電話にて行っている。</li> <li>・懇談時に聞いている。しかしそれ以外の時に改めて聞けることは少なく、職員の方から声が掛からないと個別にお話することは少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験の浅い職員も上司との報・連・相を徹底していき、自信へとつなげてほしいと願っています。今後は、相談援助のスキルアップも取り入れていきます</li> </ul>
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	37	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍になり、役員会や保護者同士のあつまりが減少している。</li> <li>・保護者同士の交流は、保護者を支えるものと考えため、感染症の様子を見ながら、場の提供を検討したい。</li> <li>・コロナ感染防止のため、本来の父母の会の活動ができていない。コロナのため未実施が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制限のある中、できる範囲での活動を協同しながら行っていきます</li> </ul>
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談等あれば、児発管や園長にすぐに相談して迅速な対応がとれるようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き相談や、申し入れについては迅速に丁寧な対応をしていきます</li> </ul>
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子連絡帳やホームページを活用し、写真や動画を用いながら園内の活動内容を開示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き適切な情報発信を行っています</li> </ul>
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の取り扱いについて毎年保護者の方に確認させていただいている。保護者の方も個人情報に気をつけてくださっている。</li> <li>・職員会議等で職員へ周知している。マニュアルにも目を通していくべき。なるべくデスクの上に個人情報を置いたまま席を離れないようにしている。使わない時はロッカーに入れるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスや職員室での書類メモの管理などについても定期的に会議等で職員の意識統一を図るようにしている</li> </ul>
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの伝えたい・やりたい気持ちを引き出す支援を基本にしている。</li> <li>・保護者へは、対話、電子連絡帳、書面等、内容に合わせて伝達する方法を工夫している。特に保護者の個性を理解することが必要。しっかりと目を見てコミュニケーションを図るよう心がけている。</li> <li>・絵カードや選択の練習をしている。ケアコラボの文面より電話の方が話しやすい方には電話で話をするようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、積極的に意思疎通や情報伝達のための視覚的手段について、職員間で工夫を行っています</li> </ul>

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	34	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナに気をつけながら、ボランティアの受け入れや、農業活動の共同等を行っている。</li> <li>・栗坂フェスティバルやフットサルは地域の人も参加している。</li> <li>・普段の行事はコロナ禍であることもあり、招待していない。</li> <li>・地域へのアピールが必要。コロナのため未実施が多い。コロナもあり、機会がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は2年ぶりに栗坂フェスティバルを開催し地域の方に学園の事業を知っていただく機会をもった。又、学生ボランティアの参加もあった。不十分な点はSNSなど通じて情報発信をおこなっています</li> </ul>
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	39	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月避難訓練を実施。子どもたちも避難サイレンへ戸惑う姿が減少している。</li> <li>・毎月実施している。訓練はしている。マニュアルは保護者に開示されていない。マニュアルを保護者には周知していない？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栗坂エリアでの不審者を想定した防災訓練や保護者への安否確認訓練などマニュアルに沿った訓練の実施を行いました。</li> </ul>
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	41	0	毎月の避難訓練を実施している。月1回ぐらいのペースで避難訓練を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の訓練の実施と3日分の備蓄、今年度はAEDの使用訓練も事業所で実施しました</li> </ul>
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	41	0	入園前説明前に看護師を中心に確認している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんかん発作やアレルギーなどマニュアルを作成し、ロールプレイ等しながら共通理解を図っています</li> </ul>
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	41	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園前説明前に管理栄養士を中心に確認している。医師の指示書のもと、給食提供を行っている。アレルギーのある食べ物が出る際には、別の物で対応している。アレルギー対応児のみ別皿で提供すると共に席も他児とは離している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士からの勉強会やマニュアルに沿って指示書に基づいた対応を行っています</li> </ul>
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	37	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼にて職員へ周知している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・@pocet（電子システム）にて記録し、朝礼で周知、PDCAでの改善サイクルを行っている</li> </ul>
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	40	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人研修、事業所内研修を行っている。毎月のクラス会議でも、お子さんとの関わりで気になる職員の関わりがないか確認する時間を設けている。</li> <li>・実習生の受け入れも多く、他の目がたくさん入るようにしている。研修にて対応等学んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待についての研修は事業所内研修、法人研修、外部の研修にて理解し、対応している。又、クラス会議や実習生の振り返り等でも再確認の場もっている</li> </ul>
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	40	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児の安全を確保する為に行う旨を記載している。保護者への説明と、同意書を得ている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員で身体拘束についての研修に参加し理解し適切な対応を行い、保護者への説明・同意を得ている</li> </ul>